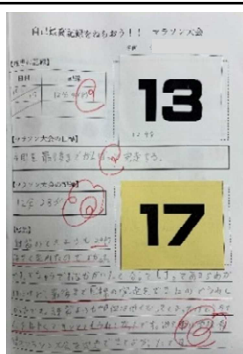


4. 領域別評価表及び取り組みの様子 (知 自ら学ぶ子)

重点目標	(知) 自ら学ぶ子 「学力向上 学びに向かう力」					評価	B	
数値目標	・「毎日の授業で、話し合いなどに進んで参加している」と答える児童を90(65)%以上にする。 ・「毎日の授業がよく分かる」と答える児童を90(65)%以上にする。 ・標準学力調査やSASAで、「算数」の評価が目標値を上回る児童を60%以上にする。							
目標設定の理由	児童生徒に学習内容を確実に身に付けさせるためには、個別最適な学びと協働的な学びの場を設定することが重要である。自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成を意識した実践をすることで学びに向かう力を高めたい。							
目標の達成状況 (児童アンケート)	・毎日の授業で、話し合いなどに進んで参加していますか。 【目標値】90(65)%以上 【アンケート結果】96(66)%	学年	◎	○	△	×	評価	A
		低学年	60%	32%	8%	0%		
		中学年	74%	22%	4%	0%		
		高学年	63%	37%	0%	0%		
		全校	66%	30%	4%	0%		
	・毎日の授業がよく分かりますか。 【目標値】90(65)%以上 【アンケート結果】96(54)%	学年	◎	○	△	×	評価	B
		低学年	64%	36%	0%	0%		
		中学年	48%	48%	4%	0%		
		高学年	47%	42%	5%	5%		
		全校	54%	42%	3%	1%		
	・標準学力調査やSASAで、「算数」の評価が目標値を上回る児童を60%以上にする。 【目標値】60%以上 【調査結果】68%	学年	10点以上	10～0点	0～-10点	-10点以上	評価	A
		低学年	62%	17%	17%	4%		
中学年		52%	17%	17%	13%			
高学年		37%	16%	10%	37%			
全校		51%	17%	15%	17%			
具体的方策に対する評価 (教員アンケート)	・子どもが考え学ぶ授業になるように工夫したか。 【アンケートによる4段階評価】3.8 A ・授業の中で個別最適な学びと協働的な学びの場の設定をしたか。 【アンケートによる4段階評価】3.5 A ・子どもの主体的な学びのため、ICT機器を思考ツールとして活用したか。 【アンケートによる4段階評価】2.6 C ・生徒指導の4つの視点を意識した授業作りができたか。 【アンケートによる4段階評価】3.5 A					評価	B	
話し合う授業 自分の意見を伝える授業 話し合う授業検討会 ICT活用の研修								
   								
総括(○)と改善策(●)	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場を設定し、学習内容の理解が進むよう工夫することができた。「授業がよく分かるか」の項目について、肯定的な回答をした児童が90%を上回り、成果が見られた。 ●授業でのタブレットやデジタルドリルの使用頻度を増やすことができたが、思考ツールとしての使い方は不十分だった。思考ツールとして使っている先進校の実践から学んでいく。 ●授業検討会を通して、これまでは「①個人で考える→②ペアやグループで話し合う→③全体で共有する」という授業の流れが一般的であったが、今後は①・②・③が入り交じる授業を目指していく必要があると、研究授業後の話し合いから分かってきた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を授業の中にどう組み入れていくか、思い切った授業改革を模索していく。							

4. 領域別評価表及び取り組みの様子 (体 元気な子 〈体力向上〉)

重点目標	(体)元気な子〔体力向上〕					評価	B	
数値目標	・「業間体育や体育的行事に向けて、目標を持って取り組めた」と答える児童を90(80)%以上に にする。 ・「スマートルールや情報モラルを知り実践した」と答える児童を90(80)%以上に にする。							
目標設定の理由	昨年度「目標を持って取り組めたか」との問いや「インターネットやメールの正しい使い方を守 っている」に肯定的な回答をした児童は90%を超えていた。本年度も昨年の取り組みを継続しつ つ、業間体育や体育的行事に主体的に取り組ませたり、情報モラル教育を実施したりしていきた い。							
目標の達成状況 (児童アンケート)	・業間体育や体育的行事で、目標を持って取 り組みましたか。 【目標値】90(80)%以上 【アンケート結果】97(82)%	学年	◎	○	△	×	評価	A
		低学年	88%	12%	0%	0%		
		中学年	91%	4%	4%	0%		
		高学年	63%	32%	0%	5%		
		全校	82%	15%	1%	1%		
	・インターネットやメールの正しい使い方を知 り、それを守っていますか。 【目標値】90(80)%以上 【アンケート結果】97(79)%	学年	◎	○	△	×	評価	B
		低学年	84%	12%	4%	0%		
		中学年	87%	13%	0%	0%		
		高学年	63%	32%	5%	0%		
		全校	79%	18%	3%	0%		
具体的方策に対す る評価 (教員アンケート)	・安心安全にすごすための情報活用能力を育成しようと努めましたか。 【目標値】【アンケート結果】3.3 B ・とびうおや体育大会で児童に目標を持たせて取り組ませましたか。 【アンケートによる4段階評価】4 S					評価	A	
とびうおタイムがんばりカード		マラソン大会 目標カード						
				大縄跳びの記録		ひまわり教室		
								
保護者アンケート	・お子さんとお家でメディアの正しい使い方について、話し合う機会を設け ていますか。 【アンケートによる4段階評価】3.1 B					評価	B	
総括(○) と 改善策(●)	○今年度も、行間体育や体育大会、マラソン大会などの体育的行事で、個人の能力に合わせた 目標を自分で考えさせた。その結果、体育大会やマラソン大会で一生懸命頑張り、「自己ベスト が出せた」「大きな声で応援できた」と喜んでいる児童の姿が見られた。なわとび大会でも目標 を達成させたい。 ○6月の保護者会で5・6年生の児童と保護者を対象に「ひまわり教室」を開いた。警察署の方 から実際の事例を聞いて、児童も保護者もSNSの危険性について知り、「気をつけようと思った」 という感想が聞かれた。 ●昨年度の結果から、高学年になるとネットやメールの正しいつかい方を守る児童の割合が 低くなる事がわかったので、外部から講師を招き話を聞いたり、体験的な活動をさせたりして指 導する機会を新たに設けたが改善されなかった。新学校では、更に計画的な啓発の回数を増や していきたい。							

4. 領域別評価表及び取り組みの様子 (体) 元気な子 (心身の健康)

重点目標	(体)元気な子〔健康で前向きな心〕				評価	A
数値目標	・失敗したり嫌になったりしても、諦めずに最後まで頑張れたと答える児童を90(70)%以上ににする。 ・「自分にも他の人にもよいところがある」と答える児童を90(80)%以上ににする。					
目標設定の理由	昨年度の取り組みでは、「自分にも他の人にも良いところがある」と肯定的に答えた児童は100%であったが、そのうち「そう思う」と答えたのは81%であった。目標値の80%は超えていたが、引き続きポジティブ・レジリエンス教育や道徳教育、情報モラル教育の充実を図り、より健康で前向きな心の育成を目指したいと考えた。					
目標の達成状況 (児童アンケート)	・失敗したり嫌になったりしても、諦めずに最後までがんばりましたか。 【目標値】90(80)%以上 【アンケート結果】94(78)%	学年	◎	○	△	×
		低学年	84%	8%	8%	0%
		中学年	83%	17%	0%	0%
		高学年	63%	26%	11%	0%
全校	78%	16%	6%	0%		
	・自分にも他の人にも良いところがあると思いますか。 【目標値】90(80)%以上 【アンケート結果】99(85)%	学年	◎	○	△	×
		低学年	92%	8%	0%	0%
		中学年	87%	13%	0%	0%
		高学年	74%	21%	5%	0%
全校	85%	13%	1%	0%		
具体的方策に対する評価 (教員アンケート)	・行事を実施する中で、ポジティブ教育やレジリエンス教育に取り組みましたか。 【アンケートによる4段階評価】3.7 A ・一人一人の児童が自分の良さを意識できるように取り組みましたか。 【アンケートによる4段階評価】3.5 A				評価	A

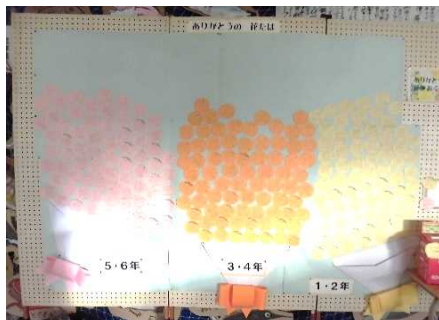
全校集会でのポジティブ教育



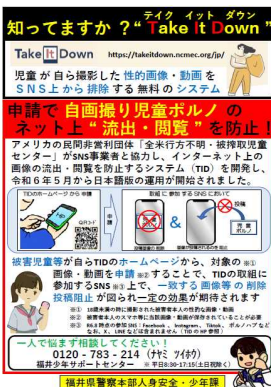
運動会に向けた達成目標決め



人権教育「ありがとうの花束」



警察からの資料をC4thで配信



総括(○)と改善策(●)	○人権月間に全校で、「ありがとうの気持ち」をメッセージに書いて伝える活動を行った。掲示されるメッセージカードを楽しみに読んだり、放送で紹介されて温かい気持ちになったりする児童の姿が見られ、自分や友達の良さを知る機会となった。 ○学級や全校でのポジティブ教育を通して、他者に支えられていることや自分の強みを発見・理解する機会となった。 ●「最後までがんばれたか。」の項目で肯定的に答えた割合が80%を下回った。個別最適化な学びに向かった目標を立て、全ての児童が達成感を味わえる工夫を継続していく。
--------------	--

4. 領域別評価表及び取り組みの様子 (徳 はげまし合う子)

重点目標	(徳)はげまし合う子 「児童が育つ生徒指導 学級経営」					評価	B	
数値目標	・「より良い学級・学校になるように、自ら進んで考え行動した」と答える児童を90(65)%以上にする。 ・「学校が楽しい」と答える児童を90(80)%にする。 ・「みんなで何かをするのは楽しい」と答える児童を95(85)%以上にする。							
目標設定の理由	昨年度「生徒指導提要」が改正され、「させる」生徒指導から「支える」生徒指導へ転換された。それを受け、本校でも、発達支持的生徒指導として「居場所づくり」「絆づくり」に重点を置き、協働できる仲間づくりを目指したいと考えた。							
目標の達成状況 (児童アンケート)	・より良い学級・学校・学校終いになるように、自ら進んで考え行動しましたか。 【目標値】90(65)%以上 【アンケート結果】91(51)%	学年	◎	○	△	×	評価	B
		低学年	72%	16%	8%	4%		
		中学年	39%	52%	9%	0%		
		高学年	37%	58%	0%	5%		
		全校	51%	40%	6%	3%		
	・学校が楽しいですか。 【目標値】90(80)%以上 【アンケート結果】99(82)%	学年	◎	○	△	×	評価	A
		低学年	92%	8%	0%	0%		
		中学年	74%	26%	0%	0%		
		高学年	79%	16%	5%	0%		
		全校	82%	16%	1%	0%		
	・みんなで何かをするのは楽しいですか 【目標値】95(85)%以上 【アンケート結果】97(82)%	学年	◎	○	△	×	評価	B
		低学年	92%	4%	4%	0%		
中学年		70%	30%	0%	0%			
高学年		84%	11%	5%	0%			
全校		82%	15%	3%	0%			
具体的方策に対する評価 (教員アンケート)	・一人一人に役割を与え、学級の一員であることが実感できる学級作りに取り組みましたか。【アンケートによる4段階評価】3.7 A ・挨拶を中心とした、発達支持的生徒指導に取り組みましたか。 【アンケートによる4段階評価】3.8A ・縦割り班活動や委員会活動が、高学年を中心に活性化するように取り組みましたか。【アンケートによる4段階評価】3.5 A ・有終の美プロジェクトに当事者意識を持って取り組むように努めましたか。 【アンケートによる4段階評価】3.4 B					評価	A	
 学年はじめの会  体育大会応援練習  全校かくれんぼ (運営委員会企画)  有終の美プロジェクト								
保護者アンケート	・お子さんは学校生活を楽しんでいますか。 【アンケートによる4段階評価】3.5 A ・お子さんは、来年3月の閉校を意識して前向きに行事に参加したり、毎日の生活を送ったりしていますか。【アンケートによる4段階評価】3.3 B					評価	A	
総括(○)と改善策(●)	○昨年より、委員会活動を通して主体的に児童が活動できるように教師側も意識して取り組んできたことで、活動や発表が活性化した。 ○「有終の美プロジェクト」として色んな行事に取り組めた結果「学校は楽しい・・・」「みんなで・・・」と答える児童が多かった。居場所づくり、絆づくりを意識して取り組めた成果である。 ●本校は、登校しぶりの児童が多い。人間関係の構築が難しかったり、家庭の考え方が多様化してきたりしたので、本人の特性に考慮しながら、家庭との連携をSCや外部機関と連携して取り組んできた。今後も引き続き、連携を取りながらチームで寄り添っていく。 ●児童が楽しみにしている「全校かくれんぼ」「応援練習」等のみんなで楽しむ活動を増やし、学校の魅力をアップさせる。							

令和6年度 学校評価アンケート結果

○ 総合的に評価する項目 とても良い…S 良い…A 課題がある…B 課題が多い…C				○ 目標に数値が設定されている項目 ほぼ100%…S、 目標値以上…A、 目標値×0.9%以上…B、 目標値×0.9%未満…C				○ アンケートによる4段階評価を行う項目 4段階評価を点数化し、SABCDの評定を行う。 S…4 A…3.5以上4未満 B…3以上3.5未満 C…2.5以上3未満 D…2.5未満					
	児童	計算値	7月 12月	教職員	計算値	7月 12月	保護者	計算値	7月 12月				
自ら学ぶ子	「授業で話し合いに進んで参加している」と答える児童を90(65)にする。	97% (79)	A	子どもが考え学ぶ授業に工夫しましたか。	3.9	A							
		96% (66)	A		3.8	A							
	「授業がよく分かる」と答える児童を90(65)にする。	94% (57)	B	授業の中で個別最適な学びと協働的な学びの場を設けていましたか。	3.4	B							
		96% (54)	B		3.5	A							
	標準学力調査やSASAで、「算数」の評価が目標値を上回る児童を60%以上にする。			子どもの主体的な学びのため、ICT機器を思考ツールとして活用しましたか。	2.5	C							
		68% (51)	A		2.6	C							
評価				生徒指導の4つの視点を意識した授業作りができましたか。	3.7	A							
B					3.5	A							
元気な子	体	「インターネットやメールの正しい使い方を知り、守っている」と答える児童を90(80)にする。	99% (75)	B	安全安心に過ごすための情報活用能力を育成しようと思えましたか。	3.7	A	お子さまと家でメディアの正しい使い方について、話し合う機会を設けていますか。	3	B			
			97% (79)	B		3.3	B						
	B	「業間体育や体育的行事に向けて、目標を持って取り組めた」と答える児童を90(80)にする。	97% (82)	A	とびうおや体育大会で児童の目標を持って取り組ませましたか。	4	S						
			99% (82)	A		4	S						
	心	「自分にも他に人にも良いところがある」と答える児童を90(80)にする。と思いますか。	99% (78)	B	一人一人の児童が自分の良さを認識できるように取り組みましたか。	3.9	A						
			99% (85)	A		3.5	A						
A	「失敗したり嫌になったりしても、諦めずに最後まで頑張れた」と答える児童を90(80)にする。	99% (75)	B	ポジティブ教育やレジリエンス教育に取り組みましたか。	3.9	A							
		94% (78)	B		3.7	A							
はげまし合う子	「学校は楽しい」と答える児童を90(80)にする。ですか。	97% (87)	A	一人一人に役割を与え、児童が主体的に学級や学校作りに参画できるように取り組みましたか。	3.9	A	お子さんは、学校生活を楽していますか。	3.5	A				
		99% (82)	A		3.7	A							
	「より良い学級や学校になるように自分から進んで行動した」と答える児童を90(65)にする。	94% (55)	B	縦割り班活動や委員会活動が、高学年を中心に活性化するように取り組みましたか。	3.7	A					お子さんは、来年3月の閉校を意識して前向きに行事に参加したり、毎日の生活を送ったりしていますか。	3.3	B
		91% (51)	B		3.6	A							
評価	「みんなで何かするのは楽しい」と答える児童を95(85)にする。	100% (61)	B	有終の美プロジェクトに当事者意識を持って取り組むように努めましたか。	3.6	A							
B		97% (82)	B		3.4	B							